



新小山市市民病院ニュースレター

Shin-Yama City Hospital News letter

Vol.42

1 副院長挨拶 ～ 原点回帰 ～

例年にも増して暑い夏が続いています。

外来に通院されている患者さん方には、以前からこの時期の屋外での運動療法については、朝は10時までに、夕方は16時以降から日没までの涼しい時間帯にやってくださいとお伝えしてきましたが、今年は全くこれに当てはまらず、午前8時にはすでに気温は30℃を超えており、日没まで30℃を切ることがありません。今年は、もうこの時期の屋外での運動はあきらめて、冷房の良く効いた室内で適当に歩いたり身体を動かしたりしてくださいと、お伝えしています。

今年は日本各所で台風による水害や酷暑、水の事故や火事などが例年よりも多発しているような気がします。ある仏典には、その時代の人々の思想が乱れると天変地災が起ると説かれています。思えば、今年は日本各所で想像を絶するような凶悪犯罪が多発していることも符合しています。

その中で、当院は昨年の「独立行政法人化10周年」を最高の上げ潮の中で迎えることができ、さらに本年は全国で6病院しか授賞することのできない「令和5年度自治体立優良病院総務大臣表彰」を授賞することができました。わが愛する病院職員が一致団結して、地域の患者さんの命を必死に護ろうと懸命に働いてきた結果ではないかと思っております。

さて、“異体同心”の心とは、お互いを敬い、尊敬し、お互いに切磋琢磨して、成長していくことを目指す心であります。たとえ世の中がどうであろうと、わたし達は理想の“オンリーワンホスピタル”を完成すべく、今一度独立行政法人化した当初の初心に“原点回帰”して、いよいよ今日からまた仲の良い再びの行進を開始していきたくと思います。

まだまだ酷暑は続きますが、お互いに体調管理を万全にして、職員を代表して地域医療をしっかりと護っていく決意です。

令和 5年 9月

新小山市市民病院 副院長／診療部長／循環器内科部長 **大谷 賢一**

2 TOPICS ～ 総務大臣表彰受賞!! ～

令和5年度の「自治体立優良病院表彰」において、最上位表彰である「総務大臣表彰」を栃木県内で初めて受賞しました。

独法人化後10年を経過した節目の年にこのような受賞ができたのは、この10年間の職員の努力のみならず、地域の医療機関をはじめ、

多くの皆様のご支援、ご協力の賜物です。職員一同、皆様に深く感謝申し上げます。今後もこれまで以上に皆様から愛され信頼される病院を目指します。



目次:

副院長挨拶	1
新任医師紹介	2
データから見る診療実績...	2
R4 決算報告	5
お知らせ	6

ハイライト

- 7月に入職された先生をご紹介します。
- **New!!** 疾患別の診療実績を、手持ちデータから割り出してご報告させていただきます。
- 令和4年度の決算報告をさせていただきます。
- ポットラック、医療・連携の会 奮ってご参加ください。

分からないこと、質問等ございましたら、いつでも、医療連携室までご連絡ください。

ドクターの紹介

新たに4名の医師が入職しました。



泌尿器科
副部長
茗荷 宏昭

令和5年7月より、新小山市民病院泌尿器科に赴任しました茗荷宏昭（みょうが ひろあき）と申します。

自治医科大学を卒業し、鳥取県での地域医療を経て2019年に自治医科大学泌尿器科に入局いたしました。専門分野に偏らない医療を提供し小山の皆様にご貢献できるよう、精一杯頑張りますのでよろしくお願いいたします。



呼吸器内科
医員
新井 直人

令和5年7月より新小山市民病院呼吸器内科に赴任しました新井 直人（あらい なおと）と申します。

栃木県出身で福島県立医科大学を卒業後、自治医科大学呼吸器内科に入局しました。大学病院では主に原発性肺癌や間質性肺炎の分野で研鑽を積み、関連病院では気管支喘息や細菌性肺炎、COPDなどの呼吸器疾患を多く経験しました。

これまでの勤務経験を活かし、小山地区での呼吸器疾患の診断・治療に尽力していきたく思います。よろしくお願い致します。



脳神経内科
医員
薄井 美由

令和5年7月から新小山市民病院脳神経内科に赴任いたしました薄井 美由（うすい みゆう）と申します。

昭和大学を卒業後、自治医科大学神経内科学に入局しました。

脳梗塞などの急性期治療や、外来での再発予防に取り組んで参りたいと思います。

今年12月までの勤務と短い間ではございますが、小山地区医師会の先生方とも連携を密にしていきたいと考えております。

至らない点多々あるかと存じますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



小児科
医員
北村 薫

令和5年7月から小児科に赴任しました北村 薫（きたむら かおる）と申します。

自治医科大学病院で初期研修後、同大学小児科に入局し、大学病院や県内の二次医療機関で診療してきました。

小山地区の子供達の健康に少しでも貢献できたらと思います。

ご迷惑おかけすることもあると思いますが、何卒よろしくお願い致します。

データからみる新小山市民病院



データからみる当院の診療実績 ～脳血管疾患（脳卒中）編～

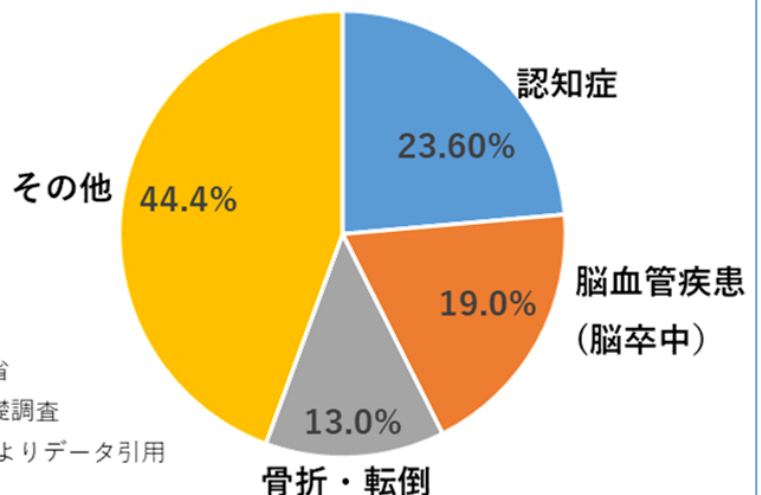


脳血管疾患（脳卒中）は、介護が必要になる主な原因（図1）のひとつであり、その予防と治療は重要になります。

当院では、迅速かつ高度な医療を提供する脳卒中センターとして、栃木県内でも数少ない脳卒中ケアユニット（脳卒中専用治療室、SCU：Stroke Care Unit）を有し対応しております。

図1

「要介護」になった主な原因



※厚生労働省
国民生活基礎調査
(2022年) よりデータ引用



データからみる当院の診療実績

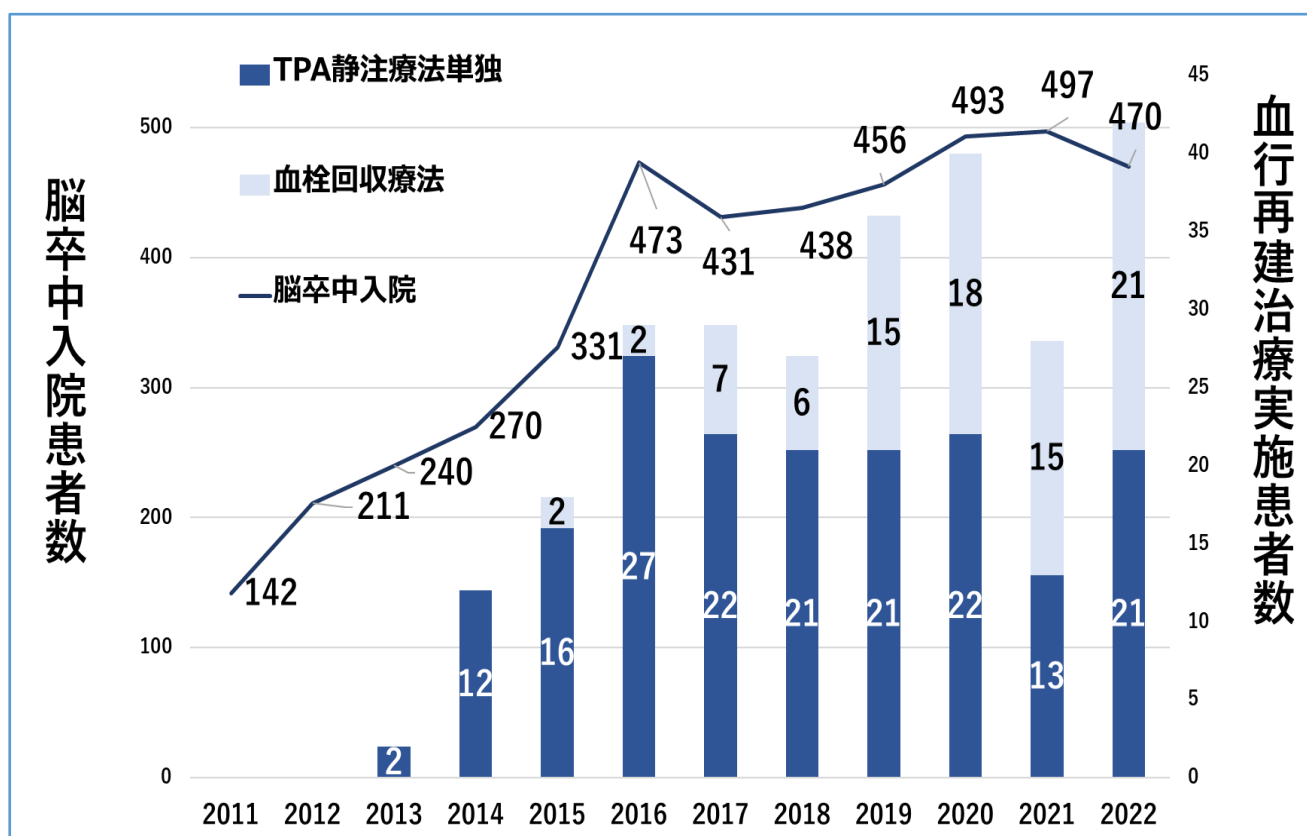
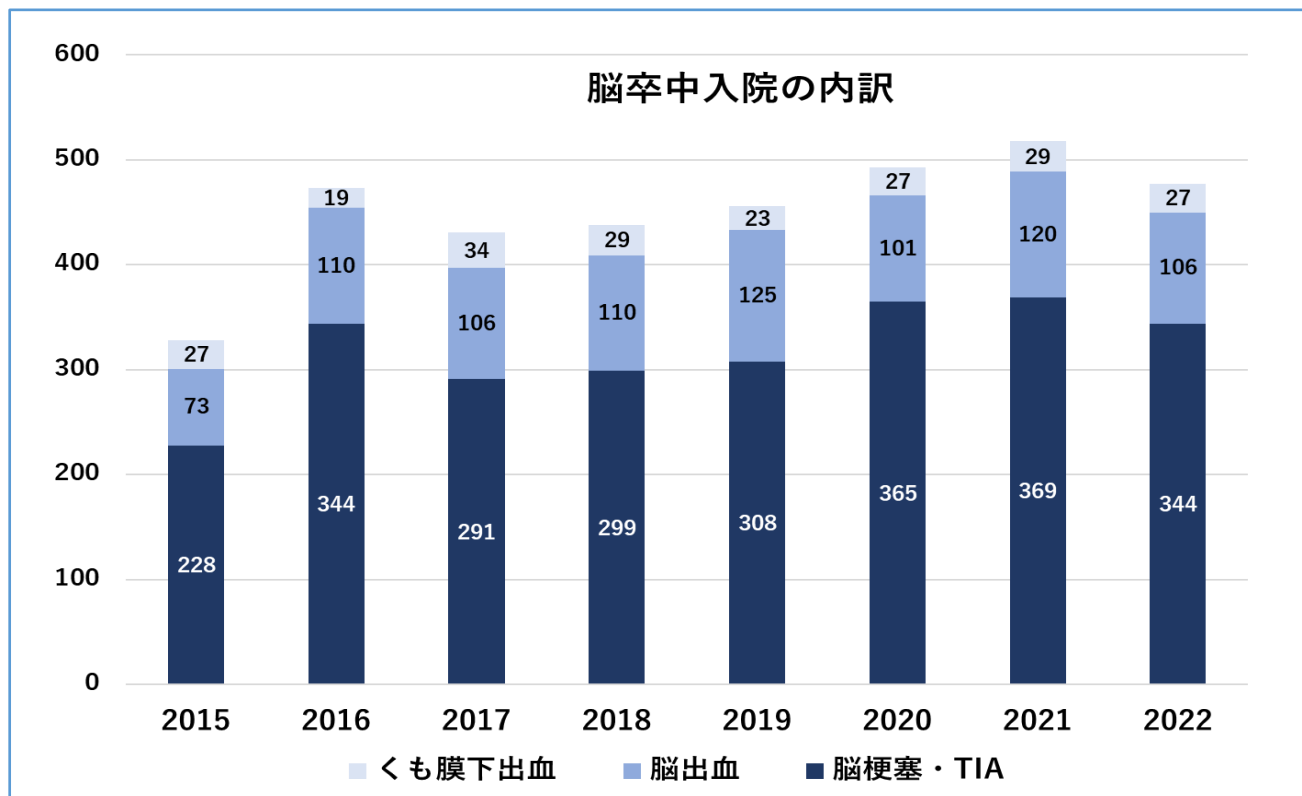
～脳血管疾患（脳卒中）編～



◆ 脳卒中

当院の入院及び血行再建治療実施患者数（図 2、図 3）は年々増加傾向にあります。

2022 年の急性期 脳卒中の入院患者数は 470 例、超急性期脳梗塞に対して TPA 静注療法を 21 例、血栓回収療法を 21 例（過去最高）行いました。





データからみる当院の診療実績 ～脳血管疾患（脳卒中）編～



地域医療の役割を担う病院として、当院では脳卒中の患者さん 617 名、県南医療圏（4 施設）の内 37.5% を受入れています（図4、参考1）。

また、当院では「脳卒中ホットライン」を設置し、救急隊および連携医療機関からの脳神経疾患の診療依頼に対応し、今後も地域の急性期医療に貢献できるよう努めます。

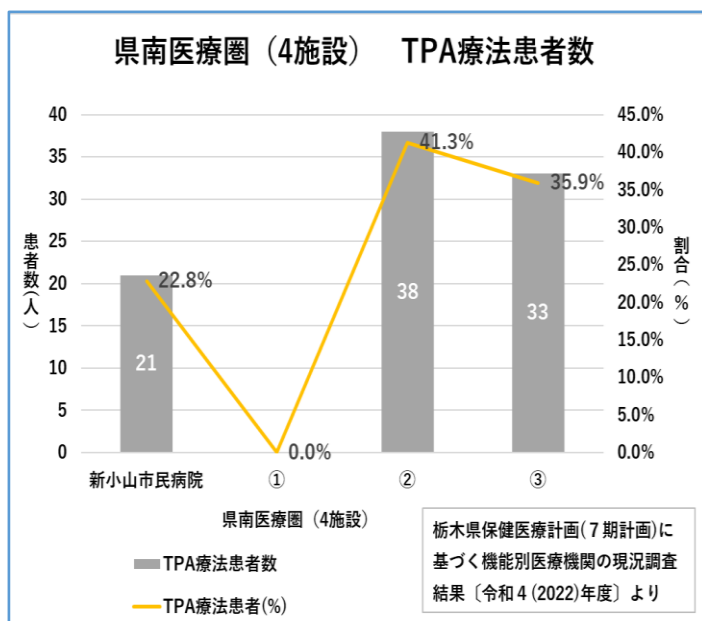
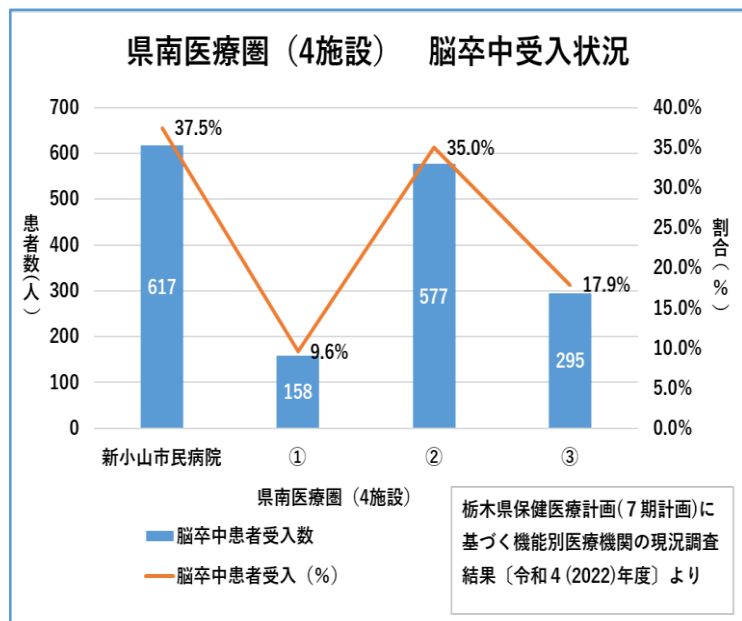


図4

参考1

◆ 脳梗塞

当院の発症日別脳梗塞の患者数（図5）は、2018年と比べて増加しています。大学病院を除く県内の病院と比べても多くなっています。（図6）

また、急性期である発症3日目以内のものが全体の9割を超えています。入院後は当院で急性期の治療を行い、その後回復期や慢性期の治療はリハビリ専門の病院等へ転院することで、患者さんにとって最適な医療を提供しております。

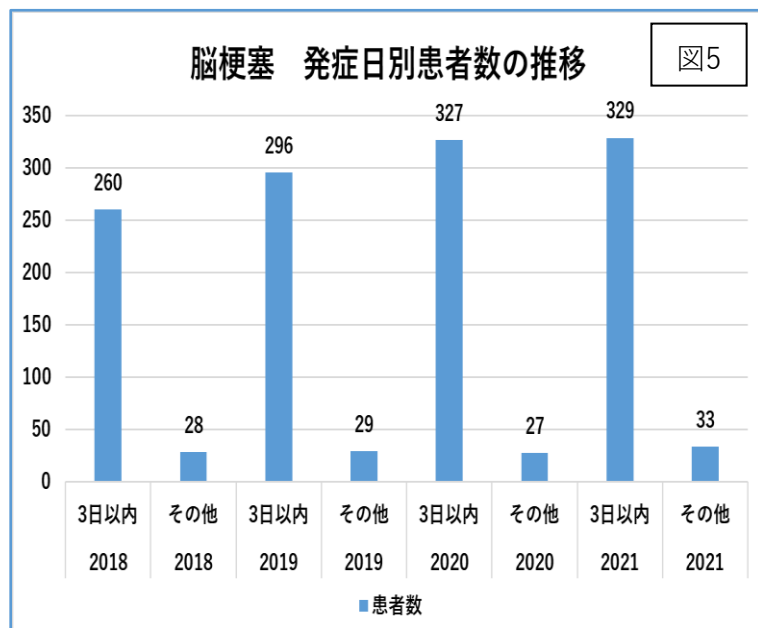


図5

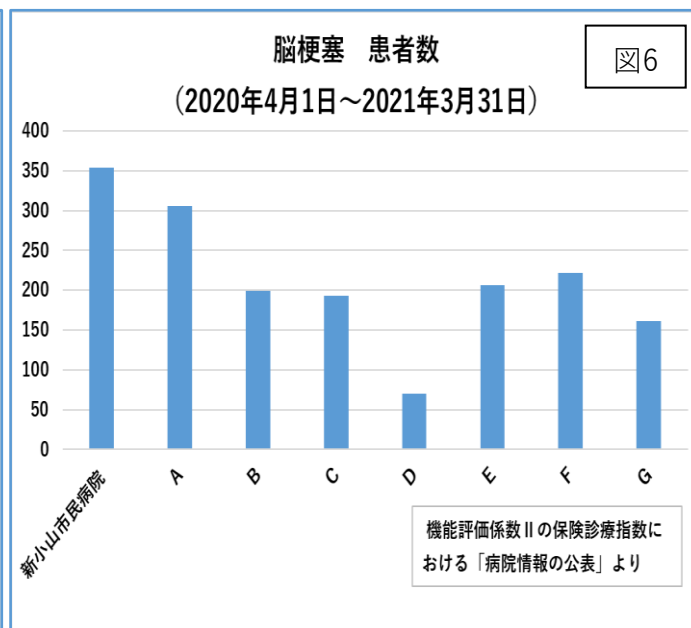


図6

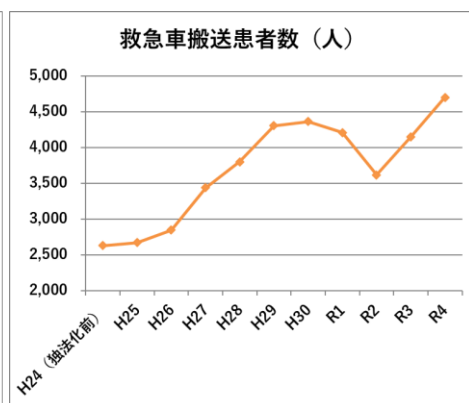
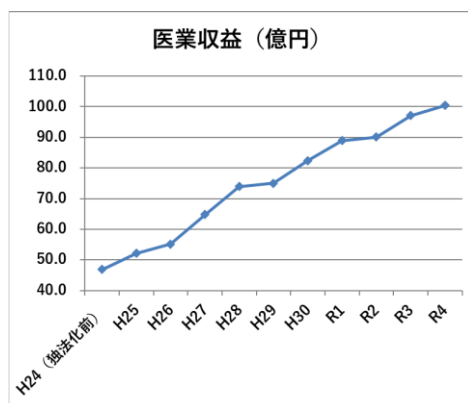
令和4年度決算について

～ コロナの影響を受けつつも独法化後10年連続の黒字を確保 医業収支でも初の黒字化 ～

令和4年度、夏と冬に二度訪れたコロナ感染拡大の波は、以前に比べ重症化患者は減少傾向となるも、感染力は逆に強まり、当院においても入院患者や職員のコロナ感染が続発、特に病棟運営や人間ドックでは大きな影響を受けました。そのような困難な状況の中にあっても、地域中核病院としての責務を果たすべく、全職員が**安定した医療体制の確保**と「**断らない救急**」体制を維持するという強い信念のもと、一般診療と中等症以上のコロナ患者治療の両立に尽力した結果、**救急車搬送件数は4,703件**と県内でも屈指の数となり、通年の**病床稼働率も95.5%**という高い値となりました。

この数字は当院の令和4年度決算にも確実に表れ、**純粋な本業での収益（医業収益）は初めて100億円の大台**に乗り、総収支でも地独法化以降10期連続の黒字を確保することができました。また外部からの負担金や補助金を除いた**純粋な本業による収支（医業収支）でも当院始まって以来、初の黒字を確保**することができました。これも地域の皆様ならびに医療機関の方々のご支援とご理解があってこそこのことであり、心より感謝申し上げます。

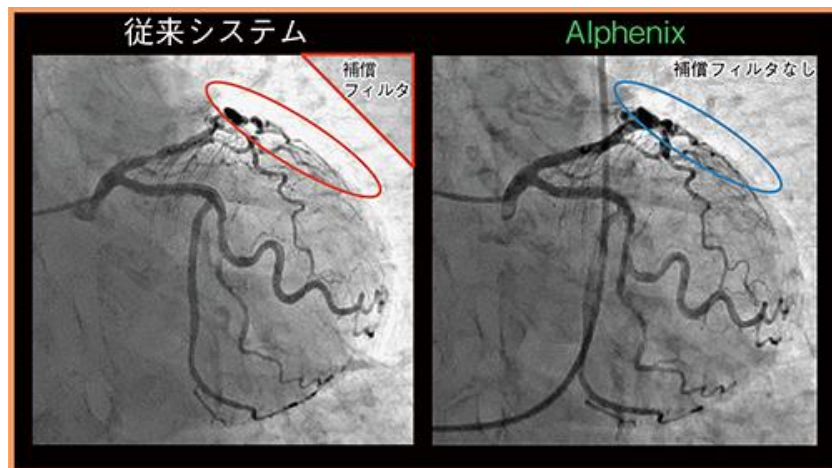
令和5年3月に地独法化10周年を迎えた当院ですが、これからも皆様から信頼され必要とされる地域密着型の急性期中核病院であり続けるべく、より一層の医療機能の充実に引き続き努めてまいります。



アンギオ室に新しい装置が入りました！

2023年8月から当院のアンギオ室における血管撮影装置がシングルプレーン装置からバイプレーン装置へと変更となりました。新しく導入したキヤノンメディカルシステムズ社製のAlphenixでは、直接入るX線の影響によって生じていたハレーション（白飛び）を、補償フィルタを入れずに防ぐことができるようになり、冠動脈造影の際に生じる肺野境界のハレーションを抑え、従来では描出しにくかった血管までもしっかりと確認できるようになりました。

また、高精細X線検出器「Hi-Def Detector」を搭載したことで、画像の劣化をほとんど起こさずに1.5インチまでの視野拡大を可能としているため、脳血管内治療の領域において、コイリングやステント留置などの場面で術者が確信を持って手技を進められるような高精度な装置となっております。



患者支援センター

(受付時間 平日 8:30~17:15)

医療連携室：

0285-36-0252

(緊急の患者紹介・転入相談・
その他地域連携に関すること)

予約専用ダイヤル：

0285-36-0254

(もの忘れ外来・内科・脳神経
内科・循環器内科の受診予約・
胃カメラ・心エコー・腹部エコー
などの検査予約)

医療相談室：

0285-36-0256

(医療相談・退院調整に関するこ
と・MSWに連絡・その他、外来患
者の各種相談に関すること)

FAX：

0285-36-0352

メール：

renkei@hospital.oyama.tochigi.jp

※メールでも受付しております。



地方独立行政法人
新小山市市民病院

〒323-0827

栃木県小山市神鳥谷 2251 番地 1

☎ 0285-36-0200 (代表)

ホームページ

<http://hospital-shinoyama.jp/>

看護師採用サイト

<http://hospital-shinoyama.jp/nurse/>

Facebook

<https://www.facebook.com/shin.oya.ma.city.hospital>



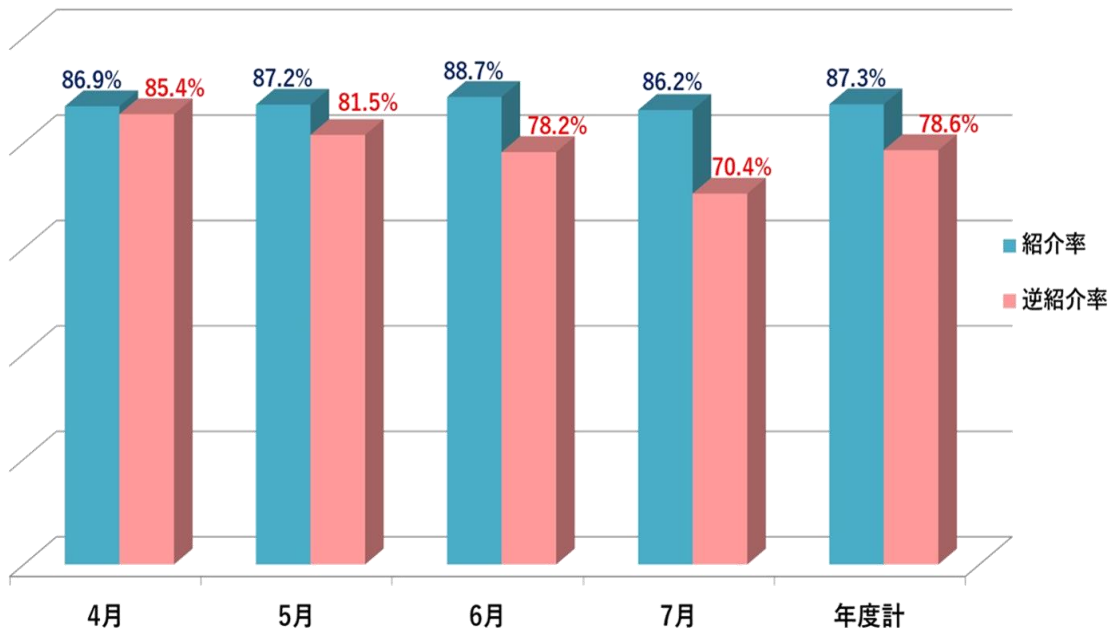
独法化10周年を
記念して記念誌を
作成しました。
ぜひご覧下さい。

患者支援センターからのお知らせ



いつも当院運営にご理解、ご協力頂きありがとうございます。

4月~7月の集計では、前年比で紹介患者数549人増、紹介率11.4%増となりました。



第43回地域完結型医療・連携の会WEBライブセミナー

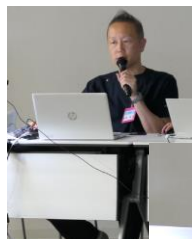
今回は、報告者全員が「地域完結型医療・連携の会」での初めての発表で、また「血液内科」の症例は、常勤医が就任してから初の報告となりました。

質疑応答では、会場とWEB間で活発なやり取りが行われました。

参加者から、「とても勉強になった」「参考になった」等のお言葉をいただき、大変嬉しく思います。

今後も皆様により満足いただけるセミナーになるよう努めてまいりますので、参加をお待ちしております。

- ・日時 7月20日(木) 19:15~
- ・場所 新小山市市民病院
- ・座長 栗原副院長
- ・症例報告者
 - 外科 篠田医師
 - 血液内科 多々良医師
 - 皮膚科 山内医師
- ・院外参加者 24名



	日 程	症例報告
第44回	令和5年 9月21日(木)	消化器内科、小児科、糖尿病・代謝内科
第45回	令和5年 11月16日(木)	脳神経内科、腎臓内科、泌尿器科
第46回	令和6年 1月18日(木)	脳神経外科、外科、心臓血管外科
第47回	令和6年 3月21日(木)	循環器内科、呼吸器内科、眼科

ポットラック
カンファレンス

偶数月、
第1火曜日 19:15
オンライン(Zoom)にて
開催しています。

10/3, 12/5, 2/6